

歯科治療における感染性心内膜炎予防投与の基準

循環器科主治医より示された病状のグループ(A、B、Cのいずれか)より判断して下さい

○=予防投与が必要 ×=不要
△=状況により処置後投与を判断

処置内容		A	B	C
基本的な考え方	菌血症となる可能性がある処置 (処置に伴い歯肉出血の可能性がある)	○	○	×
	通常は菌血症とならない処置だが・・・ (通常はないが、ひよっとしたら出血するかも)	○	△	×
	菌血症となる可能性が全くない処置 (歯肉出血の可能性は全くない)	×	×	×
以下 具体例				
診察	診察、ブラッシング指導、デンタルXP撮影	×	×	×
	歯肉出血の可能性があるブラッシング指導	○	○	×
防湿	クランプの装着(歯肉出血なし)	×	×	×
	(歯肉出血するかもしれない)	○	△	×
局所麻酔	表面麻酔	×	×	×
	PやGを有しない、歯根膜以外への浸麻	×	×	×
	歯根膜、およびPやGを有する場合の浸麻	○	○	×
歯周検査	出血を伴うポケット測定、プロービング	○	○	×
	動揺度など出血を伴わない検査	×	×	×
歯周治療	出血を伴わない歯面清掃	×	×	×
	数歯の縁上歯石で出血を伴わない除石	×	×	×
	歯石除去、SRP、歯周外科手術	○	○	×
C・補綴	薬物塗布、充填処置、偶発的露髄の処置	×	×	×
	歯冠・窩洞形成(形成時に歯肉出血なし)	×	×	×
	(形成時に歯肉出血を伴う)	○	○	×
	(形成時に歯肉出血するかも)	○	△	×
	印象採得、咬合採得、補綴物の着脱	×	×	×
Pul・Per	抜髄・感染根管処置(初回)	○	○	×
	根管貼薬処置(感染所見や出血はない)	×	×	×
	(感染所見や出血がある)	○	○	×
	根管充填	×	×	×
外来手術	拔牙、インプラント、嚢胞摘出、膿瘍切開など	○	○	×
	術後Sp、抜糸	×	×	×
治療困難児	体動が著しく、処置中に、器具で口腔粘膜を傷つけてしまうかもしれない	○	△	×
矯正	歯肉出血を伴うバンドやブラケットの着脱	○	○	×
	出血を伴わない装置の着脱や調整	×	×	×

★A、B、Cのグループ分類は、当センター独自のものです

Aグループは、世界的に予防投与が行われています

Bグループは、日本では予防投与が行われています(行わない施設もある)

Cグループは、予防投与は一切行われていません(発症する確率が一般集団と同じ)

★かかりつけ歯科医の先生へ

予防方法やレセプト記載の注意事項などは、当センターのホームページで確認できます
診療科のご案内>歯科口腔外科>歯科口腔外科からのお知らせ>基礎心疾患を...で